

総務文教常任委員会代表質問



質問者 南 雲 正

まちづくりの目標とする「一流の田舎町」のブランドデザインが見えてこない。町の活性化が急がれる中、その方向性を早急に示してほしい。

質問

町長答弁

首都圏からの「地の利の良さ」と「豊かな自然環境」が一流である湯沢町を、バブル期の負の遺産を考えずに環境保護、農業の振興、医療の充実と活用、教育環境を真剣に考えて行けば、一流の田舎町として町民が誇れる町になると確信している。雪国観光圏等の地域連携を通して観光新潟県のハブを目指していくことが一流の田舎町に繋がる。

平成22年度予算編成は真に必要なものに絞ったということであるが、廃止、縮小した事業は。

質問

町長答弁

事業が減少してきている活性化事業、観光立町推進事業、収穫祭、冬花火、社会福祉協議会運営費、道路改修改良事業等を縮小した。廃止した事業はない。

質問

行政機構のスリム化を実績として掲げながら、教育委員会に3人だけの組織である「文教施設整備課」を新設することは、事務事業の見直しと組織のスリム化という目標に逆

行するのではないか。今ある班制度を活用し「文教施設整備班」ではなぜだめなのか。

町長答弁

小学校、保育園の統合という町を挙げての大プロジェクトのため、職員の意識高揚と責任の自覚のためにも「室」や「班」ではなく「課」とし、保育園の建設も担当する。この課の新設は教育長と良く話をして取り組みをしている。

質問

町長答弁

「総合型地域スポーツクラブ」立ち上げの目的、活用方法、準備委員会の組織は

町民が気楽にスポーツ活動を楽しめる環境づくりを目標とし、非営利組織として町民や民間団体が主体的運営できる方向を目指し、設立を検討する。準備会のメンバーは総合管理公社、保健師、体育指導委員、体育協会、健康の町湯沢を願う会と生涯学習班で組織したい。

質問

童画のまちづくり検討委員会は駅東側に童画の拠点施設

の設置を提言しているが、公約である童画美術館建設との関係は。

町長答弁

童画美術館の建設は私の公約であるので、場所、規模、用地、建設費用、運営コスト等あらゆる面から検討し、今の任期中に目途をつけたい。

質問

姉妹都市提携を目標に始めた、アメリカ合衆国マグナとの国際交流の今後の展開は

町長答弁

マグナとの交流は前町長から唯一引継ぎのあったことである。中学生の交流は、人材育成の言語強化に効果が出ているので、マグナの子ども達の訪問時に町民とふれあう機会づくり理解を深め、町をあげて交流を繋げて行きたい。

質問

総合計画策定の大前提が「現在ある資源の活用」を基本にすることで今後10年の町の成長目標が限定され、公約実現が困難になり町の活性化に支障は出ないか。また町民アンケートを基に町民が望む「ま

ちづくりの指針」を定めるためには回収サンプルが少なすぎないか、外部の人の意見聴取の方法は

町長答弁

町税の減少が続く中、公共施設の維持管理費を圧縮、人員削減をして予算編成を行っている現状から、現在ある施設や用地を利用し確実な行政運営を図る必要がある、背伸びをすることは現在の財政事情から難しい。
2,000人に対してのアンケート回収率37.8%は人口の9%、世帯数の23%にあたり、今までのアンケートよりも回収率は良い。

総合計画審議委員12名のうち観光及びマンシヨン関係者が6名いるので外部の意見の聴取には支障はない。

質問

「民間で出来ることは民間で」を基本とした行政運営を進める中で、今後の指定管理者制度の導入は

町長答弁

既に条例を用意している民俗資料館「雪国館」等について検討したい。